

# 2010年度 代表事業②

## 事業名

## しずおか未来学園2010 素直なこころ共育委員会事業

## 委員会

素直なこころ共育委員会

委員長：飯野 琢磨

副委員長：藤田 能央

副委員長：山口 哲司

幹事：石川 貴規



## 事業趣旨要約

子どもたちが生きていくために必要な「たくましく生きる力」を育み、素直に「ありがとう」と言える感謝のこころを養います。「たくましく生きる力」とは、選択の連続であるこれからの人生や社会において、自分自身の意志や判断を正しく選択できる能力だと考えます。素直に「ありがとう」と言える感謝のこころとは、人と人とのつながりや温もりを感じ取ることによって芽生えます。本事業は、感受性豊かな時期にこそ学ばなければならないこころの交流を行います。集まった子どもたちが、自ら考え選択する自主性を尊重し、子どもたちがこころを一つにして多くの時間を共有することにより、友情や道徳心を育みます。その結果、すべての授業で培ったことが、大きな達成感に繋がれ、感謝できる素直なこころが持てる子どもたちになります。また、今後の人生を生き抜く強い精神力と判断力を身に付け、何事にも果敢に挑戦できる、たくましく子どもたちになる事業に取り組んで参ります。

## 背景

- ・物質的豊かな社会環境の中で、人と人とのコミュニケーションが希薄となってきた。
- ・危険排除、安全優先な過保護な地域環境において、子どもたちのたくましく生きる力の衰えを感じる。
- ・倫理性に乏しい現代社会では、大人の責任を再認する必要性が増してきている。

## 効果

- 本年の工夫と期待される効果
- ・例年とは違う目が行き届いた事業を展開するために、70人の児童を対象に募集を行い、強い未来学園の礎を築く。
  - ・多くの仲間とコミュニケーションをとる充実した時間を設け、人と人との結びつきが生まれる。
  - ・静岡の文化や風習を学ぶことにより、視野が広がる。
  - ・一人でできない状況を演出することにより仲間と感動を共有する。
  - ・親に対して考える時間を設け、支えられて生きていることの素晴らしさに感謝するこころを養う。
  - ・事業を振り返る演出により、事業をやり遂げた事を称し「大きな達成感」を味わう。

- 「基本方針 たくましく生きる力を育む」青少年育成事業の実践の実現に関わる事項
- ・大きな達成感を感じる事で素直なこころを育み、強い精神力を養う。

## 目的

- 事業目的（対外）
- ・何事にもあきらめず、たくましく生きていくために必要な強いこころを育む。
  - ・自ら体験・経験し学ぶ中で、大きな達成感を得る。
  - ・人と触れ合うことで、素直に「ありがとう」と言える感謝のこころを養う。
- 事業目的（対内）
- ・子どもたちと共に学び合うことで、大人も一緒に成長する。

## 事業概要

1. 実施日時  
・生徒募集 2010年4月12日（月）～5月21日（金）  
・会員事業参加者募集 2010年4月12日（月）～5月21日（金）※メンバー第2回上陸授業受付  
・親子事前説明会 2010年6月19日（土） 10:00～11:30  
・第1回結団式 2010年7月11日（日） 10:00～17:00  
・第2回上陸授業 2010年8月6日（金）～8月8日（日）  
・第3回認証式 2010年8月22日（日） 13:00～14:40
2. 実施場所・会場  
・親子事前説明会 静岡商工会議所5F 静岡市葵区黒金町20番地の8 054-255-5593  
・第1回結団式 静岡市女性会館AICEL21 静岡市葵区東草深町3番18号 054-248-7330  
・第2回上陸授業 都立多幸湾公園ファミリーキャンプ場 東京都神津島村字榎木沢2 04992-8-0661  
・第3回認証式 清水テルサ 静岡市清水区島崎町223番地 054-355-3111
3. 参加人数報告  
対内：親子事前説明会50名、第1回結団式50名、第2回上陸授業49名、第3回認証式120名  
対外：親子事前説明会70名（児童）67名（保護者）、第1回結団式70名（児童）70名（保護者）  
第2回上陸授業70名（児童）、第3回認証式63名（児童）70名（保護者）
4. 決算総額を記入（事業決算報告書は別紙にて添付） 3,376,285円

## 例会の流れ・目的

- こころの旅 -A Journey of your spirit-
- 何事にもあきらめず、たくましく生きる力を育む。人と触れ合うことで、素直に「ありがとう」と言える感謝のこころを養う。
- 「2010しずおか未来学園」では、これまでに培ってきた経験と体験を基に、「たくましく生きる力」を育むこと、素直に「ありがとう」と言える感謝のこころをテーマに事業を展開します。まちづくりを担う静岡青年会議所の責任、子を持つ親世代の義務として、子どもたちの「共育」に真摯に取り組んでまいります。感受性豊かな子どもたちが、普段の生活では経験できない大きな達成感が味わえる事業を通じ、何事にも感謝する姿勢や、どんな時でもあきらめな強い精神を育ててまいります。

- 第1回 結団式 6月27日（日）
- 参加を決意したのは子どもたち本人の意思であり、結団式でステージに立つのも子どもたち本人です。この勇氣ある参加を結団式では称え、これからの事業でたくましく生きる力を育むための第一歩となるセレモニーを行います。初めて会った子どもたちが本事業を充実したものとし、また目的を達成できるように早く打ち解け、子どもたち自身が一歩前に出て率先して本事業に取り組める交流を行います。

- ◆ 手法
- ・参加者全員の結団式セレモニー
- ・アイスブレイキング①（参加する子どもたち同士が打ち解ける手法）
- ★静岡の文化と風習を学ぶ。（講師による授業）
- ★方言カルタを使った遊び（個人トーナメントやチーム対抗戦、親子対戦）
- ・アイスブレイキング②（参加する子どもたち同士が打ち解ける手法）

- ★HITO20（チーム対抗戦、親子でスキップ）
- 第2回 課外授業 7月11日（日）
- 第3回上陸授業では、子どもたちの自主性を尊重するために、必要以上に大人が手を出さないよう運営します。そのためには事前段階での準備が必要です。共同生活において、個人の責任を自覚し、チームで協力することを意識しなければなりません。
- そこで課外授業では竹細工や登山用の杖を製作し第3回上陸授業の準備をします。また、仲間と一緒に作った食事を、仲間と一緒に味わうことでチームの一体感を感じ、上陸事業に備えます。

## 達成検証

- 事業目的の達成検証
- 事業目的に達した点（対外）：参加児童が、「たくましく生きる力」や素直に「ありがとう」と言える感謝のこころに自覚することができた。
- 事業目的に達しなかった点（対外）：離島での準備のため十分打合せを重ねておりましたが、急遽変更を余儀なくされることがあり、予定変更等により目的を果たせなかったところもあった。
- 事業目的に達した点（対内）：事業に参加したメンバーが児童と学び合うことにより一緒に成長できた。
- 事業目的に達しなかった点（対内）：途中参加できない事業（第2回上陸授業）のため、平等に目的を果たせなかった。
- 「基本方針 たくましく生きる力を育む」青少年育成事業の実践の実現への効果
- 全3回の事業を通じ大きな達成感を感じる事ででき、また、素直なこころを育み、強い精神力を養うことができた。

## 所見

5周年という節目の年に過去の事業を検証し、更なる飛躍に繋げるべく「しずおか未来学園」を開催しました。上程の段階で、参加申込書を見る児童が参加意欲を満ち立たせるパンフレットの製作を、とのご意見をいただき、参加動員数を大幅に上回る160名の参加希望者を募ることができました。また、参加募集を新年度4月からスタートできたことも定員に達することができた要因だと思えます。メイン事業でありました第2回上陸授業開催地でもあります神津島の選定を承認していただいた理事の皆様には大変感謝しております。このことにより、静岡では経験できない環境を演出することができ、「たくましく生きる力」や素直に「ありがとう」と言える感謝の大切さをこころに刻むことができたと思っております。更に委員会一丸となって事業に取り組んだ結果、多くの委員会メンバーが「C活動の価値を実感し大きな達成感を得ることができました。



## 担当委員長Q&A

### 01 事業選定の理由、想いを聴かせてください。

環境が目まぐるしく変化する現代社会の中で、強い意思を持ち、たくましく生きる力を育む大切さや、いろんな事へ感謝する心を養うことへのきっかけが必要だと感じたことが選定理由です。

### 02 メンバーをまとめる上で苦労した点を教えてください

事業の全体像を理解させイメージさせることが困難でした。※JCメンバーには、高学年の小学生を持つ親が少なく、小学生を取り巻く環境の情報が乏しいためです。他には、現地調査に赴き、写真を撮り委員会メンバーにイメージしてもらえように努めました。離島の為、LOMメンバー全員が参加できない点については苦労しました。

### 03 メンバーをまとめる上で工夫した点を教えてください。

全行程を委員会メンバーで運営し、LOMメンバーへの負荷をなるべく少なくなるようにしました。子供たちの班のリーダーは、最初から最後まで同じ人物にしないと子供が混乱する為、当委員会メンバーで組織しました。

### 04 事業を行う上で苦労した点を教えてください。

予期せぬ事態(悪天など)を想定し、そうなった場合でも目的達成できる行程を準備したことです。また、神津島に3回現地調査に行ったことも大変でした。

### 05 事業を行う上で感動した点を教えてください。

まだ事業の全体像が固まっていない中、とりえず神津島と静岡の接点はないかと静岡市役所観光課に伺った際、市の職員の方が、「神津島と言えばシンガーソングライター石野田奈津代さんって方がいます」と言われ、神津島でいじめに合い、島民を見返すために歌手に挑戦する彼女を例会に迎え、コンサートをしてもらうという絵が浮かび、点が線になった時の感覚が忘れられません。

### 06 1年を通して一番苦労した点を教えてください。

スケジュール管理に苦労しました。

### 07 どれだけの会議を重ねました？

スタッフ会議を2週間に1~2回、委員会を月1~2回行いました。

### 08 事業に協力してもらった企業・団体に対する想いを教えてください

JCの常識は社会の常識では無いのにもかかわらず、多くのわがままを聞いていただいたことは、感謝の言葉しかありません。

### 09 事業の中で1番印象に残った出来事は何ですか？

子供たちの募集がキャンセル待ちになったことです。4日間で定員に達し、最終的に160名。キャンセル待ちが30名に及んだことです。

### 取材全体としてのまとめ・感想

初めて県外で行われた未来学園事業ということで、大変な苦労が伝わってきました。非常に壮大なテーマを取り扱う中、シンガーソングライターの石野田様との出会いが、全体をまとめるきっかけになったという話が印象的でした。また、参加者を多く募るための工夫などは、これから我々が数々の事業を展開していく中で、是非とも伝えていかなければならないことだと感じました。

### 10 未来学園では初の県外ということで苦労した点を教えてください。

一度に100名以上の上陸を受け入れたことが無い神津島に、なぜ神津島なのかなど事業趣旨の理解を得ることでした。神津島は元々静岡県の領土だったのが接点だと、丁寧に説明しました。

### 11 「たくましく生きる力」を育む事に繋がるのと想いから、静岡から遠く離れた離島である神津島を選定したそうですが、子どもたちを神津島に連れて行くことでどのような気づき・学びを持ち帰ってもらえたかったのですか？

諦めない強い心や感謝、挑戦する気持ちです。

### 12 事業前と事業後の子供たちの変化を聞かせてください。

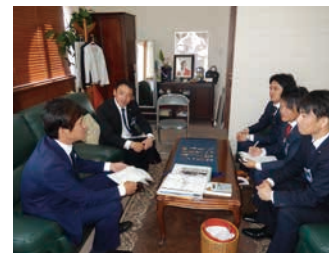
大きな声で「ありがとう」と言葉で感謝を伝えることができるようになったと感じました。

### 13 「ありがとう」と素直に言える心、が重要なテーマになっていますが、具体的にどのような形で子供たちに伝えたので

親から預かった手紙を読ませ、自ら考えさせるようにしました。あくまでも場の提供であり、気づきや学びは個人に委ねました。

### 14 “参加意欲を湧き立てるパンフレット”とありますが、どの様な点を工夫し過去との差別化を図りましたか？

パンフレットを学校で配られた際、子供本人が判断できる内容に重点をおきました。親が参加させたい内容ではなく、子供自らが親に頼みたくなるようなパンフレットにしました。絵や写真を多く使い、イメージしやすいような工夫をしました。



### 取材前と後での特に気付いた点

未来学園事業は花形事業だけれども、大変な事業で苦労が多く委員会運営が大変だったのではないかなと思っていましたが、飯野委員長は「どうせやるなら、委員会メンバーでとことん楽しんで事業をやりきろう」とと前向きな姿勢でみんなが楽しんで事業を遂行したことが印象的でした。